

おおふな

2025年8月22日 No.5

発行者：森田隼士 編集：情宣部

JR東労組 大船支部

大船支部第29回定期大会開催！！⑤

大会発言（要旨）



【小林委員長の不当転勤や希望しない異動について】

●自らも希望しない異動、見返してやろうと思った。●春闘集会で小林委員長の決意表明を聞いた。委員長の強い魂を感じた。●希望していない異動から1年が経ち、さらに希望していない人が職場に転入。希望が通らなさすぎる。●一言も希望で伝えていない職場に異動。簡易苦情処理を出すも発令を覆せなかったが、多くの人々に支えられた。●屋外での意識付けは許せない！●異動は自分の一生を左右するもの。副所長の質も問われる。●絶対に許せない。東京総合車両センターの仲間と共にたたかおう！●多種多様な働き方ならば現地現職も尊重すべき。●安全や技術継承の観点からも小林委員長は鎌倉車両センターに在籍すべきだ。●分会でいち早く情報化、組合員とも議論してきた。

【東労組運動について】

●さまざまな意見を交わすことが大切。●労働組合であっても、言われたことが間違いだと思ったら、そのことを指摘する。そうした言い合える関係がとても重要。●委員長から提起があった「組合員だけの東労組ではない」について、その通りだと思う。●大会等の場に未加入者を呼べば良い。こんなに会社のことを真面目に議論しているところは他にない。●分会レクの情報を職場で掲示。未加入者も見てくれている。

【組織強化・拡大について】

●自分の職場でもハラスメントは起こりえる。未加入者とも関わりを持ち、困ったことがあれば相談するとその未加入者が言ってくれた。●異動で組合員が減少。このままでは掲示板も無くなる。分会の灯を消さないために、分会執行委員会でも真剣に議論してきた。組織強化・拡大を実現していく。

【JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について】

●資料を見たが、本体の良いことしか書かれていない。グループ会社のことが書かれていない。●受け取る賃金は増えるというが、その分心が疲弊するのではないかと。●仲間を監視するために管理者になったのではない！●国鉄改革の苦闘があり、JRは誕生した。国鉄改革を担った人を※残滓呼ばわり。傲慢な経営体質だ！ダメなものにNOを突きつけられるのは東労組だけだ。●横文字ばかりで、何を言っているのか、何をしたいのか全く伝わらない。●副長も理解できないと言っている。●株主が喜ぶことばかり。言っていることは令和でもやっていることは昭和。●6つの区分は誰が決めるのか。明確な基準を。●討議資料を読みながら施策に向き合っていく。●会社の説明会を受けてきた。株主向け。社員にとって良いものはない。●我々がたたかっていかないと、このままでは会社が潰れる。OB だが、とにかく頑張りたいと思う。OBも支えていく。
※残滓(ざんし)＝残ったかす、残りかす。

【政治について】

●参政党が教育勅語を尊重する等と恐ろしいことを言っているが、参政党を支持した人はその人なりに「このままで日本は大丈夫？」という考えを持っている。彼らも議論すべき対象になる。

【職場での問題や課題について】

●Sharepoint から BOX へのデータ移行等を進めているが、その BOX が使いづらい。本来働きやすくなるはずが、非効率になっている。●駅へ異動した人からは「駅での勤務がキツイ」と言われている。駅に行きたいと思える職場にしないと、今後この会社は発展しない。●停止位置不良が多い。●ご飯を食べる時間も短い。●ホーム立ち番がある駅も減っている。車掌としては不安を感じる。●カスハラも多い。警察を呼んで欲しいと管理者に言うも、呼んでくれなかったこともあった。●安全問題も蔑ろになっている。●車両の修繕記事も多い。要員が足らず全ての検査や故障に対応できない。優先順位をつけて対応している。●1人作業も多い。熱中症で倒れたら誰か助けにきてくれるのか不安。